寝ても覚めても奉仕活動！

自分自身、人に支えてもらっていることに気づいてから

川淵 正（かわぶち ただし）さん

天神川原町（49歳） 畠&スターシップ税理士法人 能登事務所 勤務

奉仕活動を始めたきっかけは？と質問すると「18年前。わが子が小学校に入学したことをきっかけに子ども会に携わったことが奉仕活動のはじまりだった。それから8年後。大病を患い、2カ月間仕事を休んだときに自分の今までの在り方を考えたんや。あのときは、辛かったぁ。本当にいろいろなことを考えた。これまでの自分はどうだったんだろうとね。家族や会社の人、地域の人や友人など、多くの人に迷惑をかけてきたんじゃないかと。病気が治ったら、周囲の人たちに自分のできることで恩返しをしたい。その思いが今の奉仕活動につながったんや」と、当時のことを思い起こしながら話す川淵さん。

川淵さんは、国や県、そして市から任命を受けた17の役職を持つ。それだけでは終わらない。町会や公民館、地域活動をしている民間団体などにも参加して、全て合わせると役職数はなんと28！今、一番力を入れている七尾市子ども会連合会会長からはじまり、法務大臣から委嘱される保護司や石川県警察本部長から委嘱される少年補導員、市民のねがい推進協議会の事務局長や天神川原町の町会長を務めるなど、活動分野は幅広い。

「いろいろしているけど、子どものために活動することが一番楽しい。だって、自分たちが準備したことで子どもたちが喜んでくれると、自分も元気になるし活力になる。子どもの持つ力は不思議だよね。また、子どもは素直で自分も元気をもらえるけど、大人はわがままで疲れることが多い」と冗談半分、本気半分の口調で楽しく話す。

最近、どの分野でも奉仕活動に協力してくれる人が少なくなったり、後継者の担い手が少なくなったりと問題が浮き彫りになっている。川淵さんは「このような問題はどこにでもあることだし、なるようにしかならないが避けては通れない問題。けど、自分だけではないし、助け合える仲間もたくさんいる。なるようになっていくんよ」と、バイタリティーのある川淵さんのような人が、さまざまな問題を克服し、奉仕活動に魅力を感じてもらえる世の中が訪れることになれば、すべての人が想う理想の街が誕生することになるだろう。ぜひ、これからの川淵さんに期待したい。

東日本大震災から1年あまり。
市民の安全安心な暮らしを第一に考えた平成24年度当初予算が成立しました。
市の収入と支出を「予め（あらかじ）計算する」のが「予算」であり、予算にしたがって事業が進められます。
皆さんからいただいた税金が何に使われるのかを、皆さん自身の目でご確認ください。

防災
システム
整備

子ども
医療費
助成拡大

交流人口
拡大

世界
農業遺産
活用

予算

予算総額：522億747万9千円

市民一人あたり 900,191円

平成24年2月29日現在の住民基本台帳人口(57,996人)で算出